

長野の林業

No.
407
2026.9.10

特集

治山及び林道事業

トピックス

地域の問題

トピックス

県森連だより

- ・クビアカツヤカミキリについて
- ・全国カラマツサミット
- ・上伊那地域／北アルプス地域
- ・「林業技能検定」対策研修会



令和5年6月 下方道路へ流出した土砂・流木



令和5年6月 災害発生直後の溪流の様子



令和5年6月 溪間工着手前の様子



令和7年9月 溪間工完了後の様子

令和5年6月3日、伊那市場広山地区において最大24時間雨量160.0mm、最大時間雨量28.0mmを観測する豪雨災害が発生しました。

この豪雨により土石流が発生し、下方の市道及び水道施設へ土砂が流出する被害が発生しました。

溪流内には土砂や倒木が堆積しており次回の降雨等により再度被害を与える恐れがあったため、災害発生直後から災害関連緊急治山事業による溪間工(谷止工)を施工し、荒廃溪流の復旧整備を行いました。



長野の林業
フルカラー版

治山事業の取組について

長野県は急峻な地形と脆弱な地質条件から山地災害が発生しやすく、治山事業による県土保全を進めています。

災害復旧の取組について

令和6年度は、4月、6月、8月の豪雨を主な要因として、県内で延べ28件の山地災害が発生しました。

県では、災害発生直後から、特に被害規模が大きく緊急性の高い箇所について、災害関連緊急治山事業を活用し、早期の復旧整備に着手するなど、災害復旧に取り組んできました。

写真は松本市黒川地区において令和6年4月豪雨により土石流が発生し、市道に土砂が流出した箇所の復旧状況です。(令和7年12月しゅん工)



市道の被災状況(R6.4)



対策工事(ワイヤーネット)完了状況

令和7年度に発生した災害についても、関係者の皆様のご尽力により、復旧が着実に進んでいます。

この場をお借りして御礼申し上げます。

木材利用の推進について

長野県では、森林資源の有効活用と県産材の需要拡大を図るため、治山事業における木材利用を進めています。これまで木材は腐朽しやすいことが課題でしたが、近年は防腐処理を施した高耐久性木材の活用が進み、治山施設への利用が広がっています。

県内では、高耐久性木材を用いた土留工や床固工が施工されており、必要な強度や耐久性を確保しながら、周辺の自然景観との調和にも配慮した施設整備が行われています。



木製土留工(喬木村寺の前)



木製枠工(南木曾町袖ヶ沢)

県産材の利用は森林資源の循環利用を促進するとともに、地域の林業・木材産業の振興にもつながります。今後も木材の特性を生かした治山施設の整備を推進していきます。

【森林づくり推進課】

林道事業災害復旧について

林道災害は令和5年に発生した40箇所以降、令和6年から7年は年間5箇所程度の件数が発生、近年は減少傾向となっていますが、毎年発生している状況です。

県や関係市町村では、その後速やかに復旧整備に着手し、災害復旧に取り組んでおりますので、その状況について報告します。

林道災害復旧の取組について

令和7年の7～9月の豪雨災害により発生した林道災害は上伊那、木曽管内の4路線5箇所について関係市町村が林道施設災害復旧事業により復旧工事に取り組み、令和8年7月末現在で4箇所が復旧完了しています。

右下の写真は上伊那郡箕輪町の林道で、路肩決壊の復旧工事が行われ令和8年に完了しました。

左下の写真は令和5年に発生した天龍村の3路線6箇所の林道災害についても令和7年度内に復旧が完了し、令和5年災は全て完了となりました。

関係者の皆様のご尽力により、着実に災害復旧が進んでおります。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、令和8年度も、県内各地域の林道で災害が発生しており、関係者の皆様のご尽力により、災害査定対応を行っているところ

【信州の木活用課】



災害発生時(令和5年6月)撮影



復旧後(令和8年2月)撮影



災害発生時(令和7年8月)撮影



復旧後(令和8年8月)撮影

特定外来生物クビアカツヤカミキリについて

外来生物法に基づく「特定外来生物」に指定されているクビアカツヤカミキリが長野県内で初めて確認されました。クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラ、ウメ、モモ、スモモ等のバラ科樹木の樹幹内部に入り込んで内部を食い荒らし、樹木を衰弱又は枯死させてしまう害虫です。

皆様へのお願い

・クビアカツヤカミキリと思われる個体やフラスを見つけた場合は、各地域振興局または発見場所の市町村の外来生物担当課へ情報提供をお願いします。

・クビアカツヤカミキリを探す手がかりは、成虫またはフラスです。

・成虫を発見した場合は発見次第、殺虫剤の使用や踏みつけなどにより、その場で駆除してください。

その際は、可能な範囲で写真を撮る等して、発見日時、発見場所、発見時の周りの状況等をお知らせください。

※クビアカツヤカミキリは、外来生物法により、生きた状態で持ち運ぶことは禁止されています。

【成虫の特徴】

- ・ツヤのある黒色
- ・クビの部分が高い
- ・体長2.5～4cm



【発見する際のポイント】

- ◇フラス（木くずと虫のふんが混ざったもの）が幹、枝、根本にある

- ・フラスの特徴
- ・色は明るい茶色
- ・かりんとうのような形状
- ・薄い木くず片を多く含む



【森林づくり推進課】



「木曽谷・伊那谷フォレストバレー」

全国カラマツサミット ～カラマツの故郷信州発

その歩みと展望を全国へを開催します

（令和8年度森林フォーラム）

カラマツは長野県を代表する樹種であり、長野県で採種された種子は北海道や東北をはじめ全国に拡がり、各地のカラマツ人工林を形成してきました。現在では、長年の研究や現場での実践により、製材はもとより合板や集成材などに用途が拡大し、中高層木造建築物にも利用されています。こうしたカラマツの歩みを振り返るとともに、持続的な資源利用と今後の展望を全国の関係者と共有するため、「全国カラマツサミット～カラマツの故郷信州発その歩みと展望を全国へ～」を開催します。

サミットでは、ノースジャパン素材流通協同組合の鈴木理事長による基調講演「信州から全国に広がったカラマツの今までと今後の展望」のほか、北海道山林種苗協同組合の竹内理事長による事例報告、県内関係者によるパネルディスカッションなどを行います。

また、2日目には県内のカラマツ等の木材利活用取組の現地視察を実施します。オンライン参加も可能ですので、ぜひ事前にお申し込みのうえご参加ください。

【信州の木活用課】

詳細はコチラ

（長野県ホームページ）

参加申込はコチラ



10月26日（月）17時までにお申し込みください。

全国カラマツサミット
in 木曽谷・伊那谷フォレストバレー
～カラマツの故郷信州発 その歩みと展望を全国へ～

日時 令和8年 **11月5日（木）** 10:00～16:00
（受付開始9:30）
11月6日（金） 9:00～14:00

会場 会場*とオンラインの併用開催
※会場：長野県伊那市文化会館小ホール（長野県伊那市西町5776）

目的 カラマツは長野県を代表する樹種であり、長野県で採種された種子は北海道や東北をはじめ全国に拡がり、各地のカラマツ人工林を形成してきました。現在では、長年の研究や現場での実践により、製材はもとより合板や集成材などに用途が拡大し、中高層木造建築物にも利用されています。こうしたカラマツの歩みを振り返るとともに、持続的な資源利用と今後の展望を全国の関係者と共有するため、「全国カラマツサミット～カラマツの故郷信州発その歩みと展望を全国へ～」を開催します。

参加者 全国の森林・林業関係者等

定員 11/5 会場200名、オンライン200名
11/6 20名

参加料 無料（どなたでも参加いただけます）

参加申し込み 以下のURLより2次受付コードにより10月26日（月）17:00までにお申し込みください。
<https://forms.cloud.microsoft/c879ef268a>
・定員に達した場合は、抽選をさせていただきます。
・オンライン参加費には会場アドレス参加費（11月2日（月）にメールでお送りします）。

10月26日（月）17時までに申し込みを完了してください。申し込み完了後、参加費の案内メールが送られます。



上伊那地域

主伐再造林と地域材有効活用の 取組み(飯島町)

上伊那郡の南部は「伊南地域」と呼ばれ、比較的温暖で降水量があり、かつ「水はけ」のよい土地を好むヒノキの生育に適した箇所があります。飯島町もその1つで、先人による間伐、枝打ち等の施業により育成された美しいヒノキ人工林を見ることが出来ます。町ではこれら森林資源の有効活用を図るため、令和6年度に町有林1・44ha(約70年生)を皆伐し、令和7年度には地拵え、植栽(ヒノキ4,500本)、シカ食害対策のための獣害防止柵(約600m)の設置を実施しました。植栽作業の一部は、林業体験として地元小学生が実施しています。獣害防止柵の設置後、周辺の木の倒伏等により柵の一部が破損し、植栽地にシカが侵入することがあり、ネットの維持管理が課題となっています。

伐採で生産された材の一部は、令和8年に竣工した町の子どもの第三の居場所「いいちゃんハウス」の土台材として活用されました。「いいちゃんハウス」は約300平方メートルの木造平屋建てです。生きづらさや悩みを抱える子どもたちの自宅や学校以外で安心して過ごせる場所として、また学童クラブも兼ね備えた町内初の施設となっています。

飯島町は、森林資源の循環利用を一層進めるため、林業事業体と連携して主伐再造林の適地を選定しながら取組を進めていく考えです。



伐採前の林層



施工後の状況



いいちゃんハウス

【上伊那地域振興局林務課】

北アルプス地域

「地域の木材で 木工ワークショップ」を開催

北アルプス地域振興局では、地域の木材を地域で使う仕組みづくりの一環として、民間事業者と共同で開発したオリジナルのワークショップキットを活用し、中信地域の各種イベントで木工ワークショップを実施しています。今回は、7月26日(日)に国営アルプスあづみの公園大町・松川地区で開催された森林税PRイベント「信州山の日・木工体験」に参加しました。

当日は、コースター作りとバターナイフ・ミニヘラ作りを実施しました。材料には、北アルプス管内で伐採・製材・乾燥された木材を使用しています。倒木被害を受けたコナラやクリ、キハダ、サクラ、ブナなどの広葉樹を製材し、稲の育苗を終えた閑散期のビニールハウスを活用し、ひと夏かけて乾燥させたものです。

体験では、必要に応じて絵付けをして、木材を紙やすりで磨き上げ、蜜蝋ワックスで仕上げます。工程はシンプルですが、「木を磨く」ことに夢中になる方が多く、参加者の皆さんは黙々と作業に取り組んでいました。

当日は約80名の方にご参加いただきました。作業の合間には樹種ごとの特徴や地域産木材の利用について紹介し、「木によって色や手触りが違うことに驚いた」「地元の木でものづくりができてうれしい」などの声が聞かれました。木工体験を通じて、地域の森林や木材利用への関心を深めていただく機会となりました。



コースター作り



バターナイフ作り

【北アルプス地域振興局林務課】

目指せ合格！

「林業技能検定」対策研修会を初開催

「林業技能検定」の新設

令和6年度、厚生労働省は職種に必要な知識や技能を評価・認定する技能検定に「林業分野」を新たに追加し、資格認定試験「林業技能検定」を開始しました。

林業技能検定は、自らの技能レベルを客観的に示すことができ、安全性や作業効率の向上につながるほか、現場での指導的立場やキャリア形成にも活用できます。

さらには、「緑の雇用」FW研修の経営体要件として資格取得者の配置が令和13年度から求められることや、外国人技能実習生の「技能実習指導員」要件となるなど、県としても持続可能な林業経営を支える人材の育成に向けて、林業技能検定の取得を推進しています。

「林業技能検定」

対策研修会の開催

令和8年7月29日・30日に長野県林業総合センターにて、林業技

能検定1級・2級の受検予定者を対象とした対策研修会を開催しました。



当日は講師に（一社）林業技能教育研究所の飛田京子所長をお招きし、県内各地の森林組合・林業事業体を主に、林業事業体の指導を担う方や林業関係団体、林業大学校などから約50名に参加いただきました。

研修1日目の午前は、林業技能検定の全体概要や、受検する意義の説明からはじまり、学科試験と実技試験の判断等試験における問題・選択肢の読み解き方、試験の

出題傾向、CBT試験の対策方法、自己学習に向けた効率的な学習方法について講義いただきました。

また、1日目の午後からは、実技試験の製作等作業試験における安全や精度の評価項目、試験の流れを説明いただくとともに、参加者が持参した作業用具や安全装備について、試験で示される仕様や規格を満たしているか全員で確認しました。試験本番前に自身の用具・装備の状態や適合性を確認することができたほか、確認作業を通じて参加者同士で情報の交換や交流も図られました。



2日目は、実技試験・製作等作業試験の対策として、実際の試験環境を再現し、参加者から代表で4名（各級2人）に課題作成の試技を行っていただき、それらを見学

しながら、試験課題の計測方法、評価項目の解説、試験で気をつけるべき留意点や改善点を指導いただきました。



その後、解説や指導を踏まえ、希望する多くの参加者に製作等作業試験の課題作成を体験していただきました。

参加者自ら積極的に検査員役や計測役を担い、参加者同士でアドバイスや減点箇所を確認しあったり、互いに気付きを共有し、技能を高め合う姿が印象的でした。

やさい

次年度も研修会を開催してまいりますので、技能の向上や資格取得を目指す多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【信州の木活用課】



<競技例>

丸太合わせ輪切り競技
上向き・下向きに傾けて設置
した2本の丸太を正確に垂直
に輪切りにする技術を競う



伐倒競技 (簡易方式)
定められた方向に正確に伐倒
する技術を競う



開催 10/17(土)
林業大学校グラウンド
事務局 信州の木活用課



林業大学校学生
選手の特集動画



競技会の詳細

チェンソーの安全かつ正確な操作技術を競う「信州伐木チャンピオンシップ2026」(主催：信州伐木チャンピオンシップ実行委員会)を開催します。

本大会は、競技を通じて林業就業者の安全意識と伐木技術の向上を図るとともに、林業就業者同士の交流促進や、林業の魅力発信、新たな担い手の確保につなげることを目的としています。

競技では、伐倒方向の精度や受け口・追い口の仕上がりなどが得点として評価されます。わずか数ミリ、数度の違いが順位を左右するため、選手たちは日頃磨いてきた技術を競い合います。同時に競技においては危険な動作は大きな減点対象となり、「安全に作業すること」が高得点につながる仕組みとなっています。

7月16日には、大会に向けた選手・スタッフ講習会を開催しました。県内各地から選手や運営スタッフが集まり、競技ルールや採点基準の確認、実技講習などを行いました。参加者は競技への理解を深めるとともに、安全な伐木作業に必要な知識や技術を再確認し、本番へ向けて準備を進めています。

伐木作業における高い技術と安全作業への意識が融合した迫力ある競技は、林業関係者だけでなく多くの方にも見応えがあります。林業の「かつこよさ」や「奥深さ」を間近で感じられる機会です。

ぜひ10月17日開催の信州伐木チャンピオンシップ2026にお越しいただき、選手たちの真剣勝負を御覧ください。

「木曽谷・伊那谷フォレストバレーメインプロジェクト」
信州伐木チャンピオンシップ2026を開催します

林業薬剤に関するお悩みは、 長野県林業薬剤防除協会が解決します！

当協会は、林業薬剤の安全かつ適正な使用方法の普及を図り、
病虫獣害から森林を守ることを目的として活動しております。

- 県・市町村等で開催する林業薬剤の講習会への講師の依頼。
- 庭の先祖代々の松を守りたい。どんな林業薬剤を使用すればいいの？ など

— 林業薬剤に関するご相談はこちらまで —

長野県林業薬剤防除協会

長野市岡田町30-16 長野県森林組合連合会 内
TEL 026-226-2504 FAX 026-226-2225



正会員

レインボー薬品(株)

(株)アグロ信州

サンケイ化学(株)

住友化学(株)

大同商事(株)

保土谷アグロテック(株)

丸善薬品産業(株)

(株)ニッソーグリーン

日本曹達(株)

賛助会員

長野県森林組合連合会

(一社)長野県林業普及協会

(一財)日本森林林業振興会

長野支部

アキレス(株)



秋の記念市ご案内

◆原木 開設28周年記念市

《坂下事務所》 9月24日（木）

入札開札 13時 保証金 10万円

◆製品 開設59周年記念市 荷主会結成58周年記念市

《本部事務所》 10月17日（土）

入札開札 9時 保証金 10万円

◆原木 創立71周年記念市 「第42回 日本美林まつり」

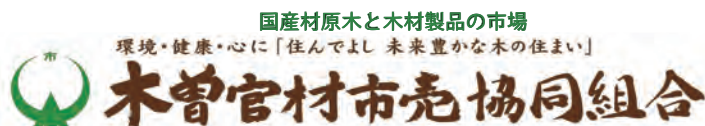
《荻原事務所》 10月20日（火）

入札開札 9時 保証金 10万円

9月・10月の市売りのご案内

本部事務所 （製品）	荻原事務所 （原木）	坂下事務所 （原木）	国有林土場等活用 委託販売市売日
特選材市 9月19日（土） 開設59周年記念市 10月17日（土）	9月29日（火） 創立71周年記念市 10月20日（火）	開設28周年記念市 9月24日（木） 10月8日（木） 10月22日（木）	10月6日（火）

※入札参加資格・入札条件等詳細については下記へお問い合わせください。



ホームページアドレス <http://www.kisokan.com>

理事長 勝野 智明

本部事務所：長野県木曽郡上松町正島町2-45

☎0264-52-2480 FAX0264-52-2324

荻原事務所：長野県木曽郡上松町荻原字中島1431-1

やぶ原土場：長野県木曽郡木祖村数原844-1

坂下事務所：岐阜県中津川市坂下133-1

☎0264-52-2483(代) FAX0264-52-4885

☎0264-24-0085(代) FAX0264-24-0086

☎0573-75-3178(代) FAX0573-75-3172



長野県造林協会 通常総会 森林・林業セミナーを開催しました

7月6日(月)長野県林業センタービル(長野市)で長野県造林協会通常総会及び森林・林業セミナーが開催されました。

本協会は79の会員(60市町村、15森林組合、4県域団体)によって構成され、再造林の推進や森林資源の有効活用、森林・林業に関する知見を深める活動のほか、森林整備に関する政策提言を、上部団体である「日本造林協会」を通して実施しています。



日時: 令和8年7月6日(月)14:00~
場所: 長野県林業センタービル5階
502・503会議室
(長野市大学中郡所字岡田30-16)

主催: 長野県森林組合連合会・長野県造林協会

長野県造林協会 令和8年度 森林・林業セミナー

基調講演 「日本における林野火災」

講師 玉井 幸治氏

情報提供 「長野県における林野火災」 長野県林務部森林づくり推進課

講師プロフィール
玉井 幸治氏
京都大学農学部林学科、卒業後、1987年から森林総合研究所にて、主に森林における水と熱エネルギーの動態に関する研究に従事し、森林の水資源動態や林野火災リスクの評価に貢献。2017年には森林防災研究推進室に就任し、現在、同室長を務める。防災林研究室内の主任研究員として従事。

▲森林・林業セミナーの開催告知ポスター

通常総会後に開催された森林・林業セミナーでは、全国各地で被害が相次ぎ、県内でも発生している「林野火災」をテーマに、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所の森林防災研究領域気象害・防災林研究室玉井幸治主任研究員を講師に「日本における林野火災」と題して基調講演を行い、会員団体のほか、県や関係団体から30名余りが参加しました。

林野火災で起こる樹冠火や地表火といった被害拡大のメカニズムについて、岩手県大船渡市や大槌町など全国で過去に発生した焼損面積150ha以上の火災事例を使い、写真やデータを交え解説されました。

また、落ち葉など林床可燃物の含水状態によって、火災が発生しやすい森林かどうかが予測できることから、過度な間伐等により樹冠が閉鎖しておらず、日照によって林床が乾燥しやすい森林はリスクが高まること紹介され、火災後にも焼け残った樹木の枯死や伴う土砂災害リスクの上昇など、火災だけに留まらない影響についても述べられました。



▲基調講演の様子

続いて「長野県における林野火災」として、上田市武石での林野火災など近年の県内での発災状況について、長野県林務部





令和8年度 森林組合会計実務研修会

安曇野市もくりゆう館にて7月9日～10日の2日間の日程で、「令和8年度森林組合会計実務研修会」を実施し、県内の森林組合職員と行政職員合計23名が参加いたしました。

本研修会では、森林組合会計の基礎を学ぶとともに、実務で行う森林組合簿記の具体的な仕訳方法を習得し、会計処理に必要な知識の研鑽を図ることを目的としています。



▲受託販売での仕訳例を用いスライドで解説勘定科目を理解し、その仕訳が何を意味するか、財務諸表の中でどのような作用を示すかが重要

▶森林組合簿記・会計について解説
会計基準や会計原則に基づいて日々の会計手続は行われており、実務で起こるこれまでに無かったような事象に対しても、原則に立ち返った判断が求められる



研修内容

- 簿記・会計の基礎
基本的な仕訳や財務諸表の見方
- 消費税の概要や経理方法
- 指導部門の会計処理方法
- 販売事業・林産事業（受託・買取）の会計処理方法
- 森林整備部門（受託間伐・造林請負・買取購買）の会計処理方法
- 事業管理・事業外・決算関係

森林組合会計は、森林組合法により事業部門別に会計を分けるようしが多様で、受託や買取・請負と契約方法もバリエーションがあるほか、補助金を活用することから勘定科目や会計処理に独特なものがあリ複雑になっています。実務では会計システムが普及し、AI活用も試みられていて昨今ですが、原則的な処理方法について学習・理解しておくことが、ツールを使いこなす業務効率化を図る上でも肝要です。

また、財務諸表の読み方や減価償却や引当金の考え方など、その場の起票処理だけではない要素もあり、得られた事実から先を読んで計画することは、健全な経営にも生かされます。

地域林業の中核を成す森林組合には、経営を安定させつつ組合員をはじめ森林所有者に最大の還元を目指す中で、適切な会計処理が求められます。長野県森連は引き続き会員組合への指導・サポートを進めてまいります。

今年も開催します！

2026
長野県協同組合
フェスティバル

協同組合を知って触れて楽しめる
農産物直売や体験コーナーなど
約38ブースが出店

日時：令和8年10月4日（日）

10：00～15：30（雨天決行）

場所：ながの表参道セントラルスクウェア
（長野市大字鶴賀間御所町1307-1）

入場無料！

長野市中央通り一帯では

善光寺表参道秋まつりも同日開催！

お問い合わせ先：実行委員会事務局（長野県生協連）
026-261-1380



▲詳しくは
特設HPから



森林組合しか知らない世界

森林組合って何？どんな仕事をしているの？組合員って？…etc.

そんな森林組合にまつわる、森林組合しか知らない世界を紹介するコーナーです♪

今回のテーマ：
～チェーンソー作業の装備～

地拵えや除伐、間伐といった森林整備から素材生産における伐倒や造材と、林業の象徴とも言えるチェーンソー。我が国では昭和34年に発生した伊勢湾台風による被害木処理を契機に爆発的に普及し、プロセッサやハーベスターといった高性能林業機械が普及した現在でも、場所を選ばない機動性と高い切削能力が重宝され欠かせないものとなっています。今回は、森林組合の技能職員も日々使用するチェーンソーの安全作業を支える装備に注目してみました。



チェーンソー…排気量40～50ccクラスで、ガイドバー長が40～45cmの機種が一般的に使われます。伐倒木の大きさや用途によって複数台用意することもある。

ヘルメット…飛来物から顔を守るフェイスガードとエンジン音から耳を守るイヤーマフが付きます。

振動軽減手袋…チェーンソーの振動から手を守り、白蟻病を予防します。

防護ズボン・ブーツ…ソーチェーンは時速70km以上の高速で回転しており、万が一身体に接触すると深く切削し、重大な災害に至ります。その為、労働安全衛生規則により、ISOやJIS等の規格に適合した防護衣の着用が義務付けられています。特殊繊維が回転する刃を止め、切削を防ぎます。汚れが酷いものや裂けてしまった防護衣は本来の性能を発揮しない恐れがあるので、交換が必要です。

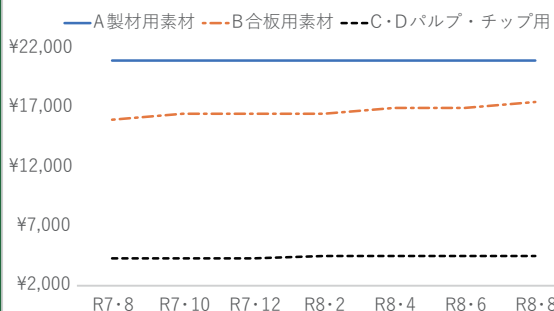
イヤースル、トランシーバー…複数の作業者と班を組んで伐倒や集材作業をする際に、騒音の中でも確実に連絡や合図を取るため使います。

クサビ、フェリンググレバー…追い口にクサビをヨキやハンマーで打ち込み、伐倒方向を限定したり、ノコ道の確保に使用します。かかり木処理にはフェリンググレバーやロープを使用します。

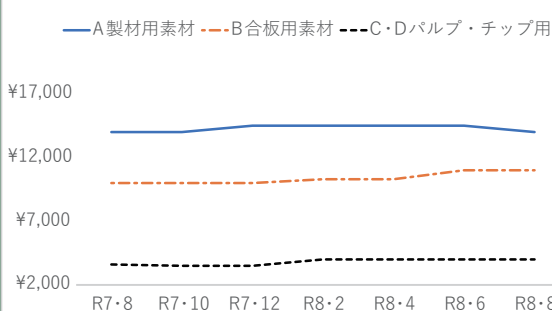
ブラグレンチ、目立てヤスリ…チェーンソーの分解清掃やメンテナンスを現場でできるような工具を携帯しています。作業効率はもちろん身体や機械を労るために、刃物は良い切れ味を維持するのが鉄則！休憩の度に目立てを行います。

JForest 長野県の木材市況

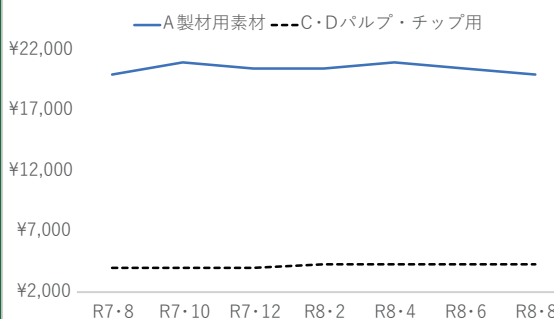
カラマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



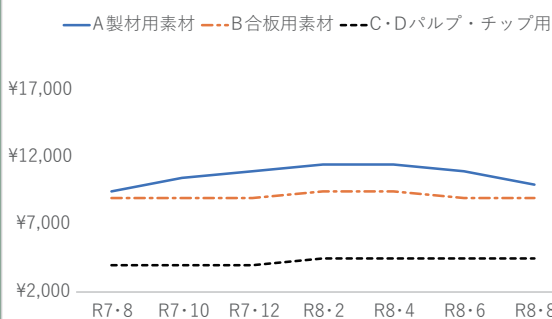
スギ用途別素材立米単価 (円/㎡)



ヒノキ用途別素材立米単価 (円/㎡)



アカマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

連日の真夏日のなか、8月の県内各木材センター市売にご出品いただき誠に感謝申し上げます。

材が傷みやすい時期であることから出材量は少ないながらも、広葉樹良材では応札活発となり、まずまずの市売結果となりました。製材用丸太については、ヒノキは需要低調であるものの、入荷量の落ち込みにより価格維持となりました。スギは一定量の需要があり、カラマツは継続的に需要がある状況です。中東を巡る情勢の影響により合板向け丸太の需要は依然先行き不明ですが、現状では安定した需要を維持している状況です。各木材センターでは、需給に応じた仕分け・極積みをしてまいりますので、これから伐採を計画されている方はご相談ください。

引き続き、集荷のご協力をお願いいたします。

【長野県森林組合連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の登録をお願いするとともに、出荷の際には、納品書に合法木材認定番号を記載し、令和7年4月1日施行の「クリーンウッド」法に伴い、合法的に伐採された木材であることの証明する書類（伐採届、森林経営計画認定書等）の提出をお願いいたします。

※安全のため荷下ろし・積込の際には車止め、またヘルメットの着用をお願いします。

イベントのお知らせ

経木を使った工作で
出展します！

ながの
森林・林業
フェア
2026

長野の
森で
遊ぼう

開催日 2026
会場 長野市茶臼山自然植物園
時間: 9:00~15:00
参加無料

写真撮影・動画撮影も可
自然観察の森を歩こう
ドームシットで森を体験しよう

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪



長野県森連